

英国におけるアーティスト・ラン・スペース先行事例

英国はアーツカウンシル制度（芸術評議会制度）の成熟国であり、多くの芸術家、芸術団体がアーツカウンシル・イングランド（英国芸術評議会）からの支援を受け活動を行っています。その活動はアーツカウンシルからの安定的な支援によって、先駆的でのびのびとした本当の生きた文化発生の場とネットワークを形成しています。

2017年1月から4月にかけて、筆者はイギリスロンドンを拠点とするデルフィーナ財団とホワイトレインボー・ギャラリーの支援を受け、イギリス内のアーティスト・ラン・スペースと言われる芸術家が主体となり運営するオルタナティブ・スペース（今までにない価値を創造する実験的芸術活動の場）の調査を行いました。こうしたスペースの多くは地域に遺る不利用の建築物等を再利用して運営されており、筆者が訪れた15のスペースの中から5つの事例をピックアップして紹介します。

平成 29 年 5 月 9 日

西田秀己 (Hidemi Nishida)

英国におけるアーティスト・ラン・スペース先行事例

1. CGP London (英国、ロンドン)

住所：GALLERY BY THE POOL, 1 PARK APPROACH, SOUTHWARK PARK, LONDON SE16 2UA

設立年：1984年

機能：ギャラリー、ガーデン、ショップ

プログラム：企画展、ワークショップ、地域教育

運営資金：アーツカウンシル・イングランド（イングランド芸術評議会）、
ロンドン・サウスワークカウンシル（ロンドンサウスワーク区議会）
寄付金、他

建築：サウスワーク公園内カフェ跡、サウスワーク公園内教会跡

HP：<http://cgplondon.org/>

CGP ロンドンは 1984 年にロンドンサウスワーク区で活動する地元芸術家団体「The Bermondsey Artist's Group」によって設立された地域の芸術拠点です。サウスワーク公園内に放置され廃墟となったカフェの建物を地元芸術家たちがアトリエとして使い始めたことから始まりました。



* サウスワーク公園の中心に建つ CGP 「CAFE GALLERY」。

同じ公園内には地域の教会がありました。1960 年には閉鎖され廃墟のままになっていました。この教会は 1886 年にケンブリッジ大学クレアカレッジによって別の公園に建てられたものですが、1909 に地盤沈下の予兆が見られ現在の場所に立て直されたものでした。新教会は 1911 年に完成しイングランドでもっとも初期のコンクリート建築として歴史的価値が高く、イングランド歴史的建造物委員会が定める「歴史建造物グレード 2」に指定されています。



* 「CAFE GALLERY」から徒歩 1 分の場所に建つ教会跡を作り替えた CGP 「DILSTON GROVE」。

CGP は 1999 年に イングランド芸術評議会、ロンドンサウスワーク区議会、そして英国国営宝くじ財団の支援を受けこの廃墟になった教会を新たなギャラリー、公演スペースとしてオープンしました。

現在では「DILSTON GROVE」と名前を変えて前述の「CAFE GALLERY」とともに地域はもとよりロンドンの重要な芸術文化の振興と発展に大きく貢献しています。



* この日「DILSTON GROVE」は閉館日だったが、ディレクターのジュディスさんとギャラリーマネージャーのビビアンさんに案内していただいた。ここでは普段大きな企画展やパフォーマンス公演などが行われるとのこと。



* 「DILSTON GROVE」のエントランスホールからはサウスワーク公園を見渡すことができる。

CGP の主な活動はギャラリーでの企画展やワークショップ、そして地域の小学校と連携し美術教育の振興にも力を入れています。特に地域の芸術教育に関しては、地域住民に親しまれている公園内という立地もあり、日頃から家族連れや子どもたちの来訪

が多く、ギャラリーを運営する経験豊富な芸術家たちによって様々な芸術ワークショップや教育プログラムが行われています。地域の小学校との連携によって芸術家の学校訪問授業なども開講されています。



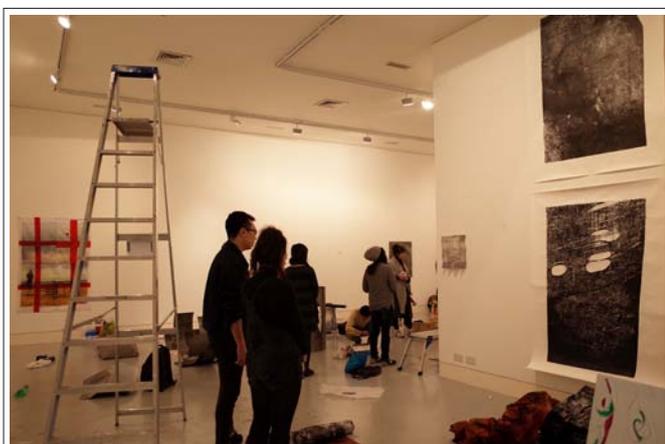
*「CAFE GALLERY」内のオフィスには子ども向けワークショップで制作された作品が置かれていた。



*「DILSTON GROVE」にて、左から CGP ギャラリーマネージャーのビビアン・ハーランドさん、同行したチェコのキュレーターのテレサ・イェンドロヴァさん、CGP ディレクターのジュディス・カールトンさん、筆者。

訪問日：2017年2月21日

写真：西田秀己



*「CAFE GALLERY」ではこの日、地元芸術大学の卒業制作点の搬入作業のため多くの学生が忙しく作業を進めていた。



*「CAFE GALLERY」のガーデンでは小さな菜園を制作中。この菜園で野菜を育てて食のワークショップを計画中とのこと。

ギャラリーでの企画展や公演等は専属のディレクター、キュレーターによって運営され、常に国際的で最先端の芸術を地域に紹介しています。また、地域の芸術大学との連携により学生の作品発表の場としても大きな役割を果たしています。この非常にハイクオリティーな展示計画・運営と、教育活動によってCGPはサウスワーク地域の文化芸術振興の要であり、地域住民の文化的活動の拠点として親しまれています。

2. East Side Project (英国、バーミンガム)

住所：86 Heath Mill Lane Birmingham, B9 4AR United Kingdom

設立年：2008年

機能：ギャラリー、ショップ、カフェ、アーティストスタジオ、大学サテライト

プログラム：企画展、ワークショップ、地域教育・連携事業、学術研究、アーティストレジデンス

運営資金：アーツカウンシル・イングランド（イングランド芸術評議会）、

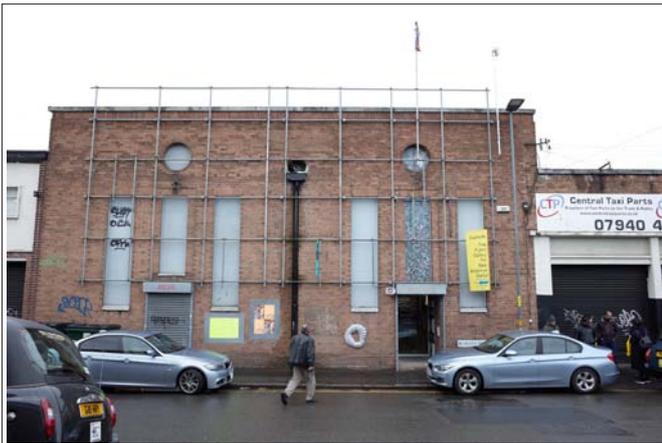
バーミンガム・シティー・ユニバーシティ（バーミンガム市立大学）

寄付金、他

建築：戸棚工場跡

HP：<https://eastsideprojects.org/>

バーミンガムはイングランドのほぼ真ん中、ウェスト・ミッドランズ州に位置する人口約100万人、ロンドンに次いで英国第2の都市です。この都市の東側、かつて工業地帯だったエリアに建つ East Side Projects（以下 ESP）は戸棚をつくる家具メーカーの工場だった場所を利用してつくられたアーティスト・ラン・スペースです。ESP は公共に対する芸術の役割を掘り下げ、地域社会と芸術との関係をより密接なものにすることで豊かな社会生活を提案することを目的に2008年に6人の芸術家グループによって設立されました。



* 「East Side Project」 外観。自動車修理工場や多くの工場跡に囲まれているが、このエリアには ESP の他にも意欲的なアーティスト・ラン・スペースやオルタナティブ・スペースが並びお互いに連携して地域社会を盛り上げている。

ESP は公共に対する芸術の役割を掘り下げ、地域社会と芸術との関係をより密接なものにすることで豊かな社会生活を提案することを目的に2008年に6人の芸術家グループによって設立されました。



* 設立メンバーでディレクターのギャビン・ウェイドさんから ESP について説明していただく。右から2番目がギャビンさん。

バーミンガムの東側エリアは多くの工場跡が空き家のまま残されており、ESP はそのひとつをアーツカウンシル・イングランドの助成により改装し225㎡のメインギャラリー、70㎡のセカンドギャラリー、滞在アーティストのスタジオ、ショップ、レコーディングスタジオ、カフェ等を持つ総合的な創造拠点としてオープンしました。



* この日は225㎡のメインギャラリーと70㎡のセカンドギャラリー全てを使った企画展が行われていた。



* カフェも広く、交流の場としてだけでなく、ワークショップやレクチャーの場としても使用される。

ESP は地域のアーティスト、デザイナー、技術者をつなぎそれぞれの独立した活動では成し得なかった新しい社会観と価値を他分野の共同作業によって作り出すプロジェクトに多く取り組んでいます。

また、地元バーミンガム市立大学との連携により同大学の視覚デザイン学科の学外スタジオ・オフィスとしても利用され、学際的な研究にも貢献しています。

巨大なギャラリー空間を使った実験的な企画展や地域社会に潜在する技能、知識の交流と言った活発な活動を通し、ESP は工業地域としては衰退したバーミンガム東部を文化的な視点から活性化させる交流と創造の場として、地域社会に大きな存在感を示しています。



* カフェにはドネーション制（1ポンド）のセルフサーバーがあり、来訪者のセルフサービスでコーヒーや紅茶を楽しむことができます。



* 地元の熱環境技術者と彫刻家との共同で制作された公共美術作品について説明するギャビンさん。中央壁面に取り付けられた円形の彫刻がその作品。手で触ると暖かく、冬の寒空の下、ESPの前を通る人たちに視覚的にも触覚的にも楽しみを提供する。

訪問日：2017年2月28日

写真：西田秀己

3. S1 ARTSPACE (英国、シェフィールド)

住所 : The Scottish Queen, 21-24 South Street Park Hill, Sheffield, S2 5QX United Kingdom

設立年 : 1995 年

機能 : ギャラリー、アーティストスタジオ、大学サテライト

プログラム : 企画展、ワークショップ、学術研究、アーティストレジデンス

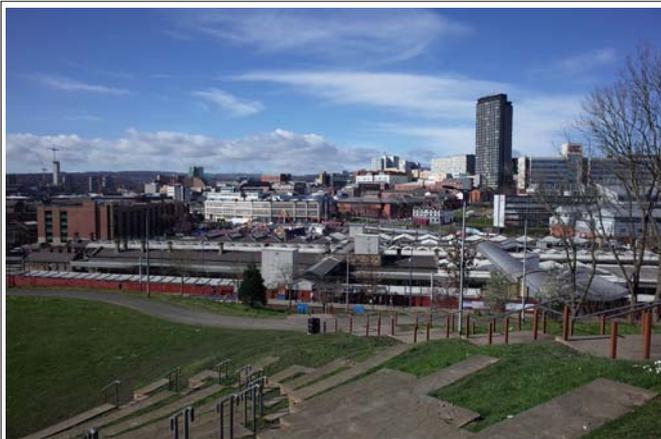
運営資金 : アーツカウンシル・イングランド (イングランド芸術評議会)、
シェフィールド・シティー・カウンシル (シェフィールド市議会)
寄付金、他

建築 : 集合住宅跡

HP : <http://www.s1artspace.org/>

シェフィールドはイングランド中央北部に位置するサウス・ヨークシャー州に属する人口 50 万人ほどの工業都市です。S1 ARTSPACE はシェフィールドをベースに活動する芸術家たちによって自分たちの活動と発表の場として立ち上げられました。この活動は芸術家の制作スタジオとギャラリーの運営を中心に展開され、ギャラリーでの展示プログラムではこれまで 500 人を越える芸術家が作品を発表し、その中の 6 人もが後に芸術界の最高権威と言われるターナー賞を受賞しています。

S1 ARTSPACE はさらに活動を広げるため、2015 年にこれまで活動拠点としていた倉庫跡から街の高台にそびえる集合住宅跡「PARK HILL」へと拠点をうつしました。PARK HILL は 1961 年に建築された集合住宅コンプレックスで、995 個の住戸、74 のガレージ、31 の店舗、4 つのパブを持つ巨大なコミュニティでした。しかし 1980 年代の鉄鋼業の不況によってシェフィールドも 4 万人の失業者にあふれ、かつて 3000 人の労働者たちが住んだ PARK HILL も衰退していきます。2003 年には最後の居住者が退居し、現在まで一部は新たな住居としてリノベーションされましたが、その他の建物はほとんどが空き家のまま廃墟と化しています。PARK HILL はル・コルビュジェの巨大集合住宅構想をもとに設計された革新的で大規模な建築ということもあり、イングランド歴史的建造物委員会が定める「歴史建造物グレード 2」に指定されています。



*PARK HILL からシェフィールドの街を望む。のどかで美しい丘陵地帯につくられた街。



* 竣工当時の PARK HILL 空撮
(出典 : <https://architectsforsocialhousing.wordpress.com/2017/01/30/sheffield-tent-city-and-the-social-cleansing-of-park-hill-estate/>)



* 現在の PARK HILL。ほとんどの建物が無人のまま放置されている。



* 区画ごとに公園も整備されていたが、いまは無人。

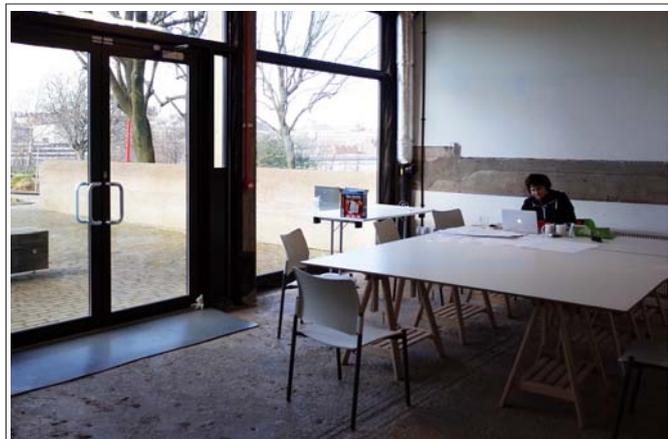
S1 ARTSPACE はこの一角をアーツカウンシル・イングランドとシェフィールド・シティ・カウンシルの助成を受けシェフィールドを拠点とする若手芸術家のための制作スタジオ、ギャラリーとして活用、運営しています。また地元シェフィールド大学芸術学部との連携によって大学院のスタジオを運営し大学院生のサテライトキャンパスとしても活用されています。学部を優秀な成績で卒業した学生には卒業後の数年間 S1 ARTSPACE にスタジオを与えられる奨学制度もっており、常に大学生や卒業したばかりの芸術家たちが出入りする場所になっています。



*新しくリノベーションされた棟。すでに新たな居住者が入居している。



*S1 ARTSPACE のオフィスは新しくリノベーションされた棟に移された。大学院スタジオもオフィスに併設されている。



*この日も大学院生が研究を進めていた。



*スタジオマネージャーのアシュレイ・ホルメスさんにまだ改装中のスタジオスペースを案内していただく。



*地元の若手芸術家が使用するアトリエの一角。彼女は一度シェフィールドを出たが数年前に帰郷し、ここにアトリエを持ったとのこと。



*PARK HILL でまだ廃墟のままの1区画。S1 ARTSPACE はアーツカウンシル・イングランドの助成を受け、2022年までにこの1ブロック全体を芸術文化の複合施設に作り替え、アーティスト・レジデンス、ギャラリー、アーティストスタジオ、イベントスペース、ショップ、カフェ、バーなどをひとつにまとめ、運営する計画。

S1 ARTSPACE はギャラリーでの企画展、イベントだけでなく地元教育機関と連携しながら芸術を志す若い人材のキャリアパスを提供することで多くの文化的人材がシェフィールドに留まることになり、街の文化的基盤を維持する大きな役割を果たしています。また芸術文化基盤が盛り上がりを見せてきたことで、一度シェフィールドからロンドンなどの首都圏に出て行った地元出身の芸術家たちが、また地元に戻り活動を始めるといった動きも出てきています。

4. The Royal Standard (英国、リバプール)

住所：Northern Lights Cains Brewery Village 5 Mann Street, Liverpool L8 5AF United Kingdom

設立年：2006年

機能：ギャラリー、アーティストスタジオ、カフェ

プログラム：企画展、アーティストレジデンス

運営資金：アーツカウンシル・イングランド（イングランド芸術評議会）、

リバプール・ビエンナーレ

リバプール・ジョン・ムーア大学

寄付金、他

建築：醸造所倉庫跡

HP：<http://the-royal-standard.com/>

リバプールはイングランド北西部、マージーサイド州の中心都市で現在の人口は48万人程度の港町です。かつては海運、工業都市として発達しましたが、その後の貿易の衰退と不況によって没落しましたが、現在は観光都市として観光客の人気を博しています。

The Royal Standard は2006年にリバプールを拠点に活動する芸術家4人のグループによって設立されました。リバプールを拠点に活動する若手芸術家や公共の文化芸術機関をつなげる交差点として設立され、リバプール周辺の芸術家、組織との密接なネットワークを築いてきました。現在は設立当初の工場跡からより大きなスペースを確保できる醸造所倉庫跡に拠点を移し、40以上の芸術家アトリエ、ギャラリー、カフェを運営しています。



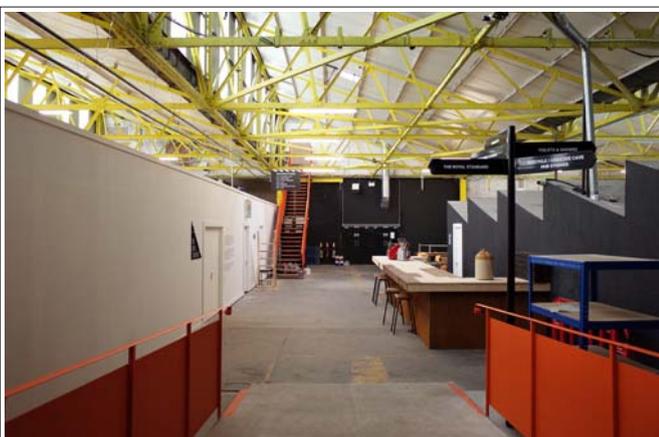
*ディレクターのエマ・クールドさんに案内していただく。



*手前のれんが造りの倉庫が The Royal Standard。おくに見える突き当たりの建物はもともとの倉庫オーナーだった醸造所。



*集合スタジオ廊下には案内図が置かれている。



*倉庫内は非常に広くエントランスを入るとすぐにカフェ・バーが見える。この空間をとりのデザイン振興団体と共有している。



*スタジオの一室、地元芸術家ケビン・ハントさんのスタジオ。ケビンさんはアーティスト・ラン・スペースの振興活動もっており、イギリス国内の主要なアーティスト・ラン・スペース100か所をまとめたリスト「ARTIST-LED HOT 100」を発表している。

地元の若手芸術家に制作スペースを提供し、各々の制作を支援しながら、新進芸術家の活動を社会に発信するベースとしての役割を果たしています。組織はこの芸術家グループから選出された数名のディレクターによって運営され、リバプールの若手芸術家の中心的な創造拠点の役割を果たしています。

ディレクター陣によってリバプールゆかりの若手作家を紹介する企画展が定期的に催されて、The Royal Standard 内のギャラリーにて1年をとおして展覧会が催されています。

施設内にはカフェ・バーやキッチンもあり、若手芸術家の制作環境の向上に勤めています。

オンラインで所属作家の作品を販売するショップも開設されており、地元の若手芸術家の持続的、発展的な活動を支える拠点としてリバプールに置ける重要な文化創造の場となっています。



* 入居芸術家が多いのでトイレの数も充実している。



* 大小様々なアトリエ、オフィスが混在している。



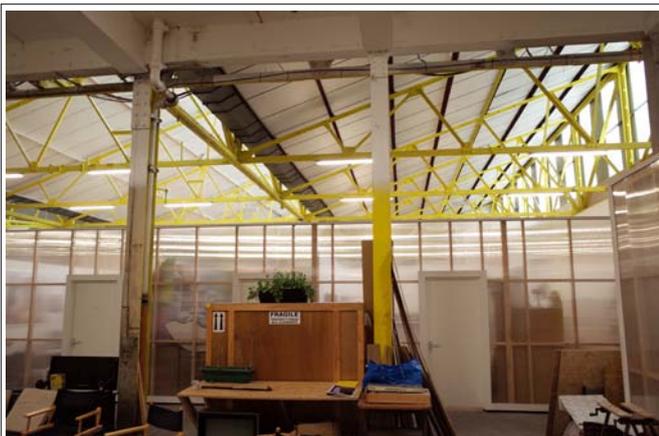
* カフェ・バーはイベントの時などに不定期でオープンする。



* 運営に携わるアーティストは定期的にこのサロンで運営会議を行い組織としての活動方針を確認するとのこと。



* 同じくアーティスト・ラン・スペース振興を志すケビンさんと。



* 天井の構造と柱は The Royal Standard テーマカラーの黄色に塗られている。

訪問日：2017年3月10日

写真：西田秀己

5. Govanhill Baths (英国、グラスゴー)

住所：99 Calder Street, Govanhill, Glasgow G42 7RA Scotland

設立年：2002年

機能：ウェルビーイングセンター、イベント・展覧会会場

プログラム：ワークショップ、イベント、シアター

運営資金：ゴヴァンヒル・バスズ・コミュニティトラスト（市民団体）

建築：市民プール跡

HP：<http://www.govanhillbaths.com/>

Govanhill Baths はアーティスト・ラン・スペースではありませんが、市民団体が主体の運営による活動で非常に魅力的な活動の例としてご紹介します。

グラスゴーはスコットランドの南西部に位置する人口 58 万人ほどのスコットランドの主要都市です。Govanhill Baths はこのグラスゴー中心から少し離れたゴヴァンヒル地区における公共の銭湯・プールとして 1917 年に完成しました。当時は住居に洗濯設備のない地域住民の衣類の洗濯の場としても重要な役割を果たしました。2001 年にこの歴史あるプールが閉鎖されることが決まり、地域住民は愛着のあるこの建物を保存活用するため、市民団体を立ち上げ、地域のウェルビーイングセンターとして運営するようになりました。地域住民の社会的、文化的な豊かさの実現をサポートする「ウェルビーイング」という概念に基づき、Govanhill Baths は地域の市民活動の場としてだけでなく、グラスゴーの文化芸術団体との連携によって舞台演劇やパフォーマンス、美術展、子どもワークショップなど様々なイベントを催し地域の社会的、文化的な活動の基盤を形成しています。



*Govanhill Baths エントランス。



*この日はグラスゴー現代芸術センターの主催による演劇パフォーマンスが開催されていた。グラスゴー現代芸術センター公共戦略キュレーターで、今回のイベント企画者であるビビアナ・ケッキアさんにご招待いただき観覧することができた。



*観客はエントランスホールから演者に導かれて会場のプールへと移動する。ここからストーリーが始まっており、一気にパフォーマンスの世界に巻き込まれてゆく。



*メインの会場となったプール跡



* 観客はプールの底に立ち観劇する。詩的で前衛的だが、子どもでも楽しめる非常にクォリティーの高い舞台だった。



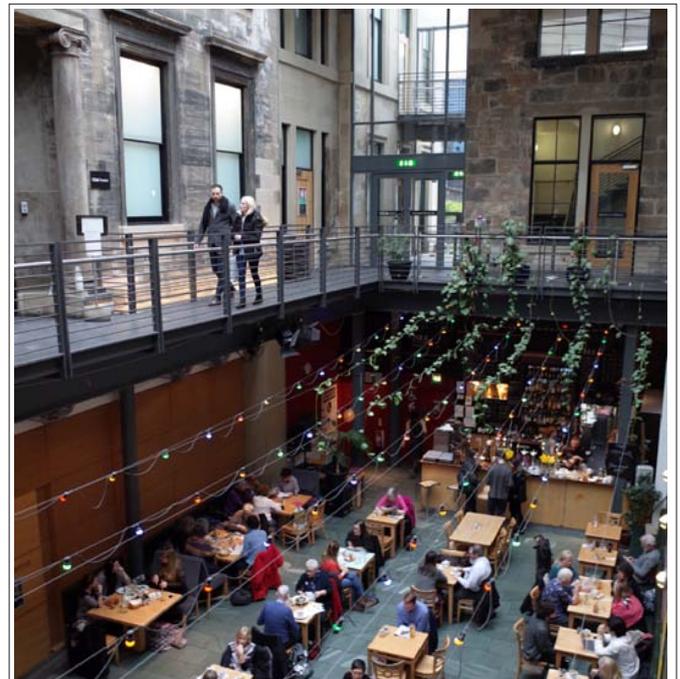
* 子どもたちも楽しめる演出がちりばめられていて、地域コミュニティ主体だからこそつくれる芸術の新たな表現を見ることができた。



* こちらは今回のイベントを企画した「グラスゴー現代芸術センター」。ギャラリー、ショップ、カフェが併設されていてグラスゴーの現代芸術シーンの中心的な場所になっている。歴史的な建造物を活用したイベントなども企画運営している。



* パフォーマンスの一場面。歴史ある建物の魅力を存分に活用したサイトスペシフィックな（この場でしか成立しない）演出で素晴らしい内容。現代芸術センターに招聘されたパフォーマンスアーティスト カティア・カメリによる作品で、地元の大学演劇科との共同で制作された。



* グラスゴー現代芸術センターの内部は広く、シアターとギャラリースペースに併設されたカフェはいつも利用客で賑わっている。